

序

薬師寺は天武天皇の発願により白鳳時代に建立され、平城遷都（710年）に伴い養老2年（718年）に現在地に移されました。

平安時代以降は火災や震災、兵火等による堂塔の消失と復興を繰り返し、廃仏毀釈や農地解放で寺地は狭小化し、戦後には主要伽藍を構成する建造物は、東塔と東院堂の他、旧金堂などの数棟が建つのみとなっていました。

このような状況の中、薬師寺は昭和40年代以降、お写経勧進による伽藍の復興を進め、昭和51年に金堂、北西僧坊を復興し、以来北東僧坊、西塔、中門、回廊、大講堂と復興しています。

今回の十字廊発掘調査は、去年の食堂発掘調査に続くもので、基壇縁辺部では羽目石を用いた基壇外装と、雨落溝なども検出され、十字廊の基壇や建物の規模が明らかになりました。また、十字廊の東側では、東小子房の一部も確認され、北側の空間利用についても新たな事実が明らかになりました。

薬師寺では、今後も史跡薬師寺旧境内保存整備基本計画並びに発掘調査に基づき、白鳳伽藍復興を進めたいと願っております。

平成26年3月

法相宗大本山 薬師寺

管主 山田法胤